

会派研修会報告書

視察参加者

仙石三喜男 古庄修一 石田浩司

全国市議会議長会研究フォーラムイン松山

日 時 平成24年 10 月 10 日～13日

場 所 松山市 ひめぎんホール 視察先 伊方原子力発電所

所感

基調講演 片山善博「地方自治の課題と議会のミッション」

パネルディスカッション「地方議会における政策形成のあり方について」

大津市で起きたいじめ問題を例に、イジメ問題など、こどもに対する施策を充実するためには教育委員会の活性化が必要になる。議会は教育委員会委員を選任しており、重要な役割を閉めている。議会は、教育委員の選任にあたり、委員の教育に対する考え方などを聴く必要性を感じた。また、地域分権改革が進み補助金改革や出先機関改革を行ってきたがこれからは住民自治の充実が課題になっている。議会として改革はもとより実践にむけ、具現化する必要がある。首長のパフォーマンスを認めるのではなく 議会としての権限を十分に使う事が求められており、そのためには市民にわかりやすい説明と信頼を持てもらうことが必要であると感じた。

伊方原発視察

四国電力職員より原子力発電の仕組みと幾重の安全性について説明を受ける。伊方原発は四国の 4 割の電力を賄っていたが、今年の夏は火力発電を使い乗り越えたそうである。火力発電はCO2の問題が残るため、原発を稼働させないで乗り越えることが出来る「自然エネルギー」や「安全が確保されるエネルギー」の開発を進めるべきであると感じた。福島原発事故により安全性が疑問視される原子力発電、同じ地域に風力発電の塔があったのが印象に残った。

